

<スズキハイテック株式会社>2018

No.1 基本情報

本社所在地：山形県山形市銅町二丁目2番30号

主要生産品：半導体・電子部品、自動車部品へのめっき

設立：昭和37年8月

資本金：6,900万円

従業員数：114名（男性71名、女性43名）

『表面処理業界のスタンダードになる』をスローガンに、お客様に、常に最高の満足を提供し続け、世界中どこでも表面処理工場といえれば引き合いに出されるような企業を目指し、全社員での改善活動により、日々品質向上に取り組んでいます。

ホームページ：<http://www.sht-net.co.jp/>



〈スズキハイテック株式会社〉2018

No. 2 時代の流れ、社長の決断

現代社会において、スマートフォンやバーチャル機器、車の自動運転など、次々に新しい製品やサービスが生まれています。世界中で今この瞬間も進化しており、さらにそのスピードも速くなっています。つい最近まで必要とされていた部品が、機種が新しくなると不要になり、市場から去っていく企業も…。そのため、企業は時代の流れにくらいついていかねばなりません。

特に中小企業が大半を占める「めっき」を行う企業は、スズキハイテックも含め、日々発展が求められています。同時に、常に新しい情報を仕入れることが重要であり、どこの国でどんな需要があるのか、そのためにはどんな開発や研究が必要か、日々の新鮮な情報が企業を支えています。

鈴木一徳社長は、データのみを頼りにするのではなく、実際に自分の目で現場の人に話を聞くことを実践して、生の情報を収集しています。めっき業は有毒なものを取り扱うこともあり、その特性上、環境問題に敏感でなければなりません。そうした環境への配慮のため、先週はヨーロッパへ向かい、現地で話を伺ってきたそうです！

しかし、技術開発には失敗ももちろんつきものです。そのため、時には取り組んでいたものを手放し、新たなビジネスを起こす、その繰り返しになります。そんな荒波にのまれながらの社長という立場がどれだけ責任や緊張が走るのか、まだ学生という枠組みの中で守られている私には計り知れません。ですが、お話しをされる鈴木社長はそんな日々を楽しんでいるようにも見えました。

そんな社長が進化し続ける現代で大切にしていることは、「決意と行動」。展開が早い分、スッパリと撤退すること、ぶれないことが大切だとおっしゃっていました。従業員には一人ひとり家族がいる、だから社長が気ままに「自分の夢は～」と振り回してはいけない、何より夢で終わらせてはいけない、というお言葉がとても胸に響きました。

取材では、外国人が多数就業していることや、県内にありながら海外にも拠点を広めて戦っている企業だからこその強さやおもしろみが垣間見えました。私自身も現代社会で生活し、これから社会人として働く者としての姿勢を教えてくださいました！

(人文社会科学部 4年 箱山)



インタビューの様子。



鈴木一徳社長です！
めっき業の 5 代目として会社をさらに継続していくために、技術開発に力を入れています。



めっきライン。めっきは表面に薄膜をつくることで、素材に様々な特性を付与できます。
奈良時代にはあったという古くて新しい「ハイテック」技術です。



どれも鉄にみえますが、実は鉄は中央のスパナだけです。
他の二つは、CFRP(炭素繊維強化プラスチック)へ、めっきによって金属の特性を付与したものです。
持ってみると重さが全然違います。

<スズキハイテック株式会社>2018

No. 3 生活に安心を提供する

「社長には責任がある。みんなの生活とか。会社経営は自らの夢を見るのではない」。

山形の大地で、めっき加工を主要事業にして 105 年目を迎えたスズキハイテックの 5 代目、鈴木一徳社長がこう話しました。

この「生活」には、山形に住んでいる従業員や地域住民の方々の生活はさることながら、海外の人々も含んでいます。スズキハイテックは大きな企業ではありませんが、隣国の中国、太平洋の向こう側のメキシコにまで足を運んで、ビジネスを展開しています。そのため、スズキハイテックが支えたい「生活」は、日本人の生活のみならず、外国人の生活も含まれているのです。国籍を問わず、学歴を問わず、めっき加工や技術開発で一人前になれるように従業員を育てています。

スズキハイテックでは責任感の強い社長のもとで、安心して仕事ができます。そうすれば、自分もいつか他人に安心をもたらすことのできるような一人前になれると思いました。

(社会文化システム研究科 2 年 張)



検査室です。めっきしたものの外観を検査し、剥がれ、割れなどを検査します。



低温恒温恒湿器です。めっきしたものは過酷な環境に置かれることも多いので、めっきしたものが温度変化に耐えられるか、塩水をかけても錆びないかなどを確認します。



分析室です。めっき液を分析して数値化します。化学の実験室ですね！

〈スズキハイテック株式会社〉2018

No. 4 留学生の積極的採用

スズキハイテックの特徴の一つとして、外国人留学生の採用が多いことが挙げられます。地元の山形大学との繋がりが強いこともあります。なぜ、スズキハイテックでは多くの外国人の方を受け入れることができるのでしょうか？

スズキハイテックでは、日本人か外国人かどうかに関わらず、自分の能力を発揮できる場が用意されているからです。山形大学への留学生であった従業員が製造ラインの責任者に抜擢されたり、国際展示会での営業を担当していたりして、活躍しています！

近年、日本で外国人の方が働くことが増えてきているとはいえ、まだ問題もあります。それは、外国人従業員がもつ「孤独感」です。近くに身内がないことはどうすることもできず、その孤独感から仕事を続けることが難しい人も多いそうです。

そこでスズキハイテックでは外国人を積極的に採用しています。「20人ぐらいの外国人の方を採用し、彼らのコミュニティを作ってあげたい」と話す社長。週末には外国人従業員と一緒に出かける計画を立てたりして、仕事だけでなく日本での生活のサポートをしています。

「スズキハイテックの中国でのビジネス拠点は地元近く、自分が働きたい環境になっている」という中国出身の李さん。「山形と（インドネシアの）パプア州の懸け橋になりたい」というインドネシア出身のペトルスさん。学位をもつ2人は、日本語と外国語を上手に話すことができ、入社後にすぐ主力として大きな仕事を担っています。2人の活躍は、海外進出をしていく中で、また今後の日本社会の変化のうえでとても重要なことだと思います。

(工学部1年 服部)



李さん（左）は日本語・英語をマスターしていて（当然中国語も）、営業も開発もできるエキスパートです。
ペトルスさん（右）は博士学位をもっています！



ペトルスさんが担当するめっき工程。
自動車のEV化に欠かせない部品を小型化するのに不可欠なめっき技術を開発しています。



李さんが手作りしたCFRPのめっき工程。
CFRPとは炭素繊維強化プラスチックのことで、近年注目される新素材です。CFRPの弱点をめっき技術で解消することを目指しています。



スズキハイテックの外観です。